



22春闘を前に、会社経営陣が 早くも印象操作！



ベアは、経営の状況を見て判断する。ベア以外に元気になれる方法を考えている。赤字ではあるが、社員は非常に元気で頑張っている。社員が元気であることが、安全やサービスにつながると考えている。

(2022.1.1 ニッポン放送 コロナ禍に克つ2022より)

今、鉄道業界は非常に厳しい環境下にあります。今の状況ですといわゆるベースアップは非常に難しい。賃上げ全体に対して厳しい環境にあると言わざるを得ない。定期昇給を普通の時の半分にしていますのでそういった定期昇給をまずどうするか。そこからの議論だと思っている。

(2022.1.6 フジテレビ めざまし8より)

テレビで言うか！



年明けから経団連副会長でもある富田会長が22春闘について、会社としての見解を述べています。経団連は「賃金は、あくまで個別労使で徹底的に議論を行い、最終的には企業経営者が判断した結果である」と、労使での議論を経て判断すると考えを示しています。

この発言は、「労使議論＝労働組合の否定」さらにはコロナ禍における現場の努力を踏みにじるものであり断じて認められません。職場では「休日出勤だらけで誰が元気なんだ！」「モチベーションを下げる発言！」「春闘が始まる前から世論へ赤字アピール！」など、怒りの声が止まりません。

東京地本は、本部と共に22春闘を全組合員で取り組んでいきます！